

「江川・吉野川の 環境美化・保全の未来を考える」

日時 2015年8月29日(土)
13:30~16:30
(13:00開場)

場所 吉野川市 鴨島公民館
3階 江川わくわくホール
(吉野川市鴨島町鴨島甲1番地)

参加費無料・申込み不要

日本三大暴れ川である利根川(坂東太郎)・筑後川(筑紫次郎)・吉野川(四国三郎)では、これまでの相互交流と水環境の研鑽を礎として、更なる理解と友好を深めるため、平成24年9月30日に、各河川の活動団体により「三大河川の兄弟縁組」を締結しています。

今回は、利根川・筑後川活動団体の皆様をお迎えし、江川をはじめ各河川における活動団体の代表が集まり、河川環境の美化・保全の未来について考えるシンポジウムを開催します。

プログラム

13:30 開会

利根川・筑後川団体歓迎アトラクション 太鼓一家・和太鼓の演奏

13:45 江川における環境美化活動の発表・紹介

- ①『四国三郎吉野川と江川のつながりの歴史』
吉野川市文化協会 理事長 日野 俊作
- ②『NPO法人江川エコフレンド 15年間の取り組み』
吉野川市西麻植会館 館長 岡田 晋
- ③『名水百選を守る江川鴨島公園の活動』
吉野川市立鴨島第一中学校生徒会 掘金 愛莉、大村 百花
- ④『江川ゆうねんの河川敷公園づくり』
吉野川高校生と江川奉仕橋かもクラブ 10年の歩みと連携
徳島県立吉野川高等学校 JRC インターアクト部 部長 井内 一貴

15:00 三大河川(利根川・筑後川・吉野川)パネルディスカッション

コーディネーター

上月 康則 (徳島大学大学院 教授)

パネリスト

- 福成 孝三 (利根川流域交流会 会長)
駄田井 正 (NPO法人 筑後川流域連携倶楽部 理事長)
中村 英雄 (NPO法人 新町川を守る会 理事長)
米田 博 (正法寺川を考える会 会長)
千葉 昭彦 (美馬町まちづくり委員会「美馬未来塾」委員長)
岡田 年弘 (NPO法人 江川エコフレンド 理事長)

16:30 閉会

■お問い合わせ先

○吉野川市鴨島公民館
TEL: 0883-24-5111

○徳島県県土整備部
河川整備課水資源・流域振興室
TEL: 088-621-2636

主催: NPO法人江川エコフレンド

共催: 吉野川交流推進会議、四国の川を考える会

後援: 国土交通省徳島河川国道事務所、徳島県、吉野川市、吉野川市教育委員会



吉野川交流推進会議「まるごと吉野川“魅力再発見”講座」との連携事業により、公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています。



未来に美しい河川づくりを思う！

NPO 法人江川エコフレンド

理事長 岡田 年弘

私たちが吉野川堤防と江川湧水源・鴨島公園一帯の環境美化・保全ボランティアとして活動を始めて十五年の節目の年に、「日本三大河川シンポジウム2015」を主催した。三年前に吉野川交流推進会議が兄弟縁組みをした利根川流域交流会、NPO 法人筑後川連携倶楽部の県外組三十一名と吉野川流域で河川美化・保全活動をしている団体や関心のあつた人たち百五十名が、鴨島公民館に集まつた。テーマは「江川・吉野川の環境美化・保全の未来を考える」を基に広く未来に美しい河川をどう育てていくかを話し合つた。最初にわが団体の活動報告、鴨島第一中学生や吉野川高校生の江川鴨島公園や江川ゆうねんの淵での美化活動報告があつた後、六名のパネラーがそれぞれの活動紹介と取り組みを通しての課題や懸念・夢などを語り合つた。河川の規模や環境が違つて新鮮であり、非常に参考になつた。かつての河川流域の生活に触れ、それが生活文化として根付き、現在は国・県・市等の行政と企業と市民ボランティアが文化として発展させて来ていると感じた。これからの私たちの役目として、河川環境資源の再発見に努め、その個性・特性を生かして環境が輝く美化・保全活動をしていきたい。そこにこそ、人を飽きさせず、心を癒す場として、未来へ繋がる美しい河川に成長・発展させることが出来ると確信したシンポジウムであつた。

また、課題である高齢化や人手不足解消になる新会員増のためには、会員が感じているやりがいや喜びの表情が伝わるように新聞等で取り上げて欲しい、ボランティア人口を開拓する手立てとして、行政が河原の清掃夫作戦を家族連れに呼びかけ、流氷物の撤去をする社会貢献体験をさせたり、吉野川の歴史資料館の建設も後継者育成に大切だと提案させてもらった。他からは、川を守る人づくりと継続の大切さや「川の駅づくり」などの提案もあつた。



